Descent of Holy Spirit Orthodox Church in Odawara

小田原・平塚正教会だより

2016年3月号

2016年3月1日発行　第163号

司祭　ディミトリイ　田中　仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX：0465-22-2792　携帯　080-5074-6363

E-mail: holyspritodawara@gmail.com

日本ハリストス正教会教団 HP: http://www.orthodoxjapan.jp/

本教会 HP: http://odawara-orthodox.com/

郵便振替口座: 00270-6-15226

静岡ハリストス正教会現生神女庇護聖堂。まるで青い海に浮かぶ、長い航海を終えた船のように見えた。これは2月15日迎接祭の午後、取り壊し前の安全を願う感謝祈祷を終えた後の写真。この翌日より本聖堂は取り壊し作業に入った。

「航海する者、旅行する者、病を患う者、艱難に遇う者、虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に祷らん」

大連祷の第八の祈願文

聖体礼儀解説（8）～大連祷その七～

この祈願文によって私たちは、主の慈愛が海を渡る者、陸路又は空路で旅行する者、病のために臥せっている者、ひどく疲れている者、そして戦争や事件などで囚われの身となってしまった者に…（2ページへ続く）

●断肉の主日聖体礼儀

3月6日（日）　10:00～　(9:30 痛悔)

第7調　コリンフ前8：8-9：2　マトフェイ25：31-46

●乾酪の主日代式祈祷・赦罪の晩課 （赦罪の晩課は16時から小田原にて）

3月13日（日）　10:00～

第8調　ロマ13：11-14：4　マトフェイ6：14-21

復活祭前四十日大斎の始まり　詳しくは6ページの月間活動予定表をご覧ください。

●大斎第一主日　正教勝利の主日聖体礼儀　・　月例パニヒダ・聖書講話/

3月20日（日）　10:00～　(9:30 痛悔)

第1調　エウレイ11：24-26, 32-12：2　イオアン1：43-51

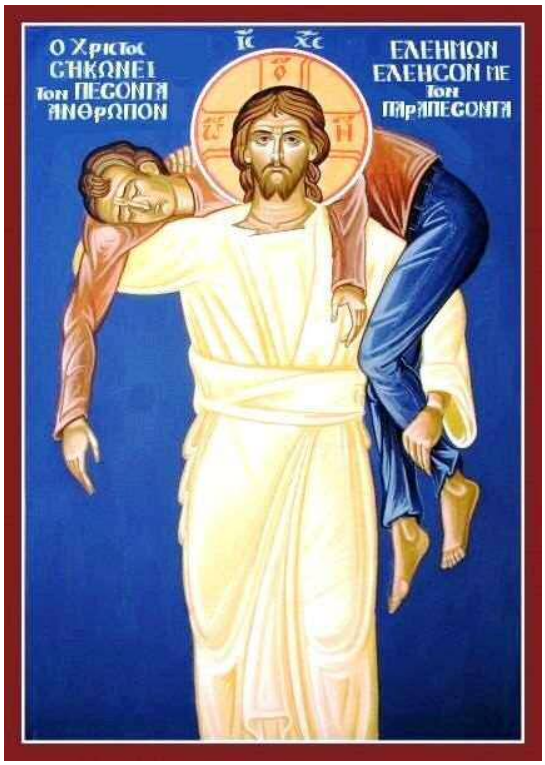
聖体礼儀解説(八)　～あなたを休ませてあげよう～

（表紙からの続き）…及ぶことを願います。私たちは、主ハリストスが彼らの人生の労苦を嘉(よみ)して彼らのために神の国への道を開いてくれるように祈るのです。

「人生に疲れた。人間関係に疲れた。いろいろ要求してくる窮屈(きゅうくつ)な社会につかれた。全てに疲れた。もう全部投げ出したい」。現代社会にはそのような声が溢(あふ)れています。しかも、自分自身がつらい状況にあるときは、「今まで神は助けてくれなかった」と、諦めにも似た気持ちを持つかもしれません。しかし、その諦めの気持ちはむしろ自分自身をもう一度顧みるチャンスになっているのです。神様からの招待状を受け取るかどうかは、私たち自身にかかっているのです。

主ハリストスは、疲れた人々に、重荷を背負う人々に、『私のもとにきなさい、あなたを休ませてあげよう』と言っています（マトフェイ伝 11:28）。ただ身体的に疲れているだけでなく、精神的に疲れている人々、精神的な重荷を背負ってしまった人々を主ハリストスは教会に、聖体礼儀に招いています。教会は癒(いや)しの場であり、霊(たましい)の休息の場所です。聖金口イオアンは言います、「悩んでいる人、悲しんでいる人、苦しんでいる人は教会に来なさい。その人たちは喜びとさまざまな労苦からの休息を得るであろう。**『すべて重荷を負うて苦労している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう』**という主の言葉より優しい言葉が他にあろうか。この言葉より嬉しい招きが他にあろうか。主はあなたを教会に招いている。あなたに喜ぶことを、あなたが労苦から休息を得ることを望まれている。なんと言い尽くされぬいたわり、これはまさに天国への招待状である」。

人生に疲れ、会社での人間関係に疲れ、窮屈な社会での責務に疲れた人は主ハリストスの招待状を受け取ってください。主はその父親のような愛と優しさで私たちを休ませてくれるのです。**「虚しさを感じるとき私たちの心は神の傍にある」**という聖師父の言葉を私たちはまさに生きています。そして、主ハリストスの存在を最も身近に感じられるところが教会での聖体礼儀なのです。



最近の出来事・消息

小田原　**代式祈祷・聖堂赤カーペット張り替え**　1月から2月にかけて、代式祈祷後の時間を利用して、山口・神谷両副補祭の音頭取りにより、参祷者で赤カーペットの張替え作業を行ってきました。フェルト製の劣化した赤カーペットは、つまずき防止のために両面テープで床に張ってあったため、その接着テープを剥がす作業を参祷者で少しずつ行いました。三月はじめ、いよいよ新しい赤カーペットが敷かれます。作業に多大な労力を下さった皆様に感謝申し上げます。

赤カーペットを固定していた接着テープを根気よく剥がす

聖歌研修会 2月7日(日)午前10時より、五旬祭後第 36 主日聖体礼儀を行いました。この日は、前日の徹夜祷から来会されている聖歌者リュボフ田中博子姉と共に祈祷しました。聖体礼儀後、昼食をはさんで聖歌研修をはじめました。この聖歌研修は東京大主教教区主催で毎年行われているものです。今年は「ポロキメン」をテーマに、はじめに講師の田中先生より発声の仕方を教わり、続いて司祭よりポロキメンとはそもそも何か、また1調から8調までのポロキメンが聖書のどの箇所が用いられているか、および各箇所の意味を学びました。続いて、田中先生よりポロキメンをどのように歌うかを実際に歌いながら学びました。さらに、田中先生が参祷された際、小田原教会の聖歌についてお気づきになった点をご指導いただきました。先生のご指導のもと歌ってみると、これまで戸惑いながら歌っていた部分が歌いやすくなりました。先生からは、ここまで努力して皆で歌えるようになったのだから、より良い聖歌を目指してくださいと励ましの言葉を頂きました。

信徒研修会 2月18日(木)午後2時から、東京大主教教区主催信徒研修会が行われました。講師としてコンスタンティン 桝田尚神父様にご来会いただき、「シナゴーグ～伝道の誤解～」というテーマでお話を賜りました。シナゴーグという場所の役割と、聖使徒、特に聖使徒パウェルが実際どのように当時活動していたのかを紐ときながら、私たちの教会が決

してユダヤ教から新興したものでもなく、主ハリストスが開教したものでもなく、旧約聖書に記された神を信じ、さらにそこに記された救世主についての預言がハリストスによって成就されたことを受け入れ、神を正しく讃美している群れであるということを、神父様ご自身が足を踏み入れたシナゴーグの画像を交えながら約100分にわたってお話を賜りました。近代に作られた「教会」という言葉の定義ではなく、私達が「オーソドクス」、つまり「正しく神を讃美する」人々の集まりであることを理解することによって、教会での「集い」の根本的な意味を知ることができ、私たちの信仰生活がより味わいあるものになる講話を聴くことが出来ました。

柏久保 **晩課** 2月13日(土)18時から、ザクヘイの主日晩課を行いました。この日からいよいよ四旬大齋の準備期間に入るにあたり、神父が「短」という文字について、ミニ講話を行いました。「私達の人生は短く、また私たちの思いも神様に届くほど長く足りていません。私たちは救世主を一目見てみたいと願ったザクヘイのように背伸びをして、心に天国への梯子をかけ、ゆっくりでも一段一段登って行きましょう」という励ましでした。また集会の機会に合わせて茨城県笠間市の白凛居から柳澤幸子さんが付き添いの娘さんと2名のカメラマンの方と共に来会され、柏久保ハリストス正教会が所蔵する山下りんの聖像画と聖堂の外観を撮影されました。信徒の皆様にはご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

静岡 **解体作業安全のための祈祷** 2月15日(月)、午後1時より生神女庇護聖堂内にて、聖堂取り壊し前の祈祷を行いました。この祈祷については、静岡教会の方々をはじめ、解体業者・近隣住民・関係者に予めお知らせし、この時間には少しでもそれぞれの作業の手を止めて、静岡教会聖堂建て壊しを思って祈ってほしい、と神父から話がありました。そのためか祈祷の始まる時刻になると、何か特別な緊張感を覚えました。この日、それは雲一つない青空、それに向かって伸びる白壁と緑青の鐘楼の最後姿を、参祷者は惜むように、長く見ながら互いに様々な思い出話を交わしました。

役員会兼建設委員会進捗報告 1月26日(火)NPO法人美術保存修復センター横浜での打ち合わせの結果、いよいよ聖像画の修復作業に着手することとなりました。修復の総費用は 2,382,480 円で、うち

1,000,000円を司祭が寄付で募り、教会の本会計からは約1,400,000円を支出します。また、センターの方からは「山下りんイコン修復基金(仮称)」を設立し、一般から寄付を募るために修復期間中の公開展示を行う申し入れがあり、すでに多少の募金が集まっているとのことです。2月11日(木)に東京での教会代表者会議の際に司祭からその旨を近藤執事長に伝え、了解を頂きました。また、解体業者は慎重に内容を精査して決定しました。解体費用は総額2,300,000円となる予定です。

修善寺 **聖体礼儀**　2月14日(日)10時から、ザクヘイの主日聖体礼儀を行いました。外気温23度という2月とは思えないほどの暖かさと激しい風雨の朝、それでも無事聖体礼儀に集うことが出来たのは、まさに神様のおかげとの感謝の気持ちが沸き起こりました。またこの機会に合わせて茨城県笠間市の白凛居から柳澤幸子(山下りん弟の孫)さんが付き添いの娘さんとプロのカメラマンの方2名と共に来会され、教会が所蔵する山下りんの聖像画と聖堂の外観を撮影されました。信徒の皆様にはご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

平塚 **地区集会** 2月20日(土)午前10時より、渡辺万千子姉宅にて地区集会を行いました。この日は、2007年NHKで放映された山下りんに関するドキュメンタリーを観ながら、19世紀後半、明治維新、文明開化の時代に聖ニコライを通じて正教の信仰を受け入れた自分たちの信仰の「歴史性」について、司祭と信徒が互に意見を交換し合いました。ご家庭を解放して下さった渡辺姉に心より感謝致します。

献金報告

2/21現在　日付は会計処理日です。ありがとうございました。

日付	氏　　名	摘　　要
1/10	鵜澤　修一副輔祭	会報献金
	横溝　順子姉	感謝献金
1/31	廣石　和子姉	降誕祭献金
	山口　敏之兄	パニヒダ献金
	廣石　和子姉	パニヒダ献金

日付	氏　　名	摘　　要
2/14	大井　道江姉	会報献金
2/21	古茂田　進兄	感謝献金
	由良　キン子姉	感謝献金
	神谷　幸夫副輔祭	パニヒダ献金
	廣石　末子姉	パニヒダ献金

婦人会献金：

日付	氏　　名	摘　　要
1/31	山口　敏之兄	感謝献金

予定表入る

3 月の永眠者一覧(敬省略)

永眠日	聖名	氏名	永眠年	縁故者
３日	ハリティナ	平山 ちょう	２００３年	平山　京子
５日	ハリティナ	廣石　ハナ	２００２年	廣石 真太郎
７日	マリナ	澁谷　ノブ	１９３６年	澁谷　道子
９日	アニシヤ	砂澤　えん	１９５９年	
１０日	セルギイ	中島　幹彦	１９８８年	中島 八千代
１１日	ペトル	重田　恒男	１９３１年	重田　　仁
１１日	アレキサンドラ	小玉　ヤエ		出口　常智
１３日	司祭ペトル	假野　成章	１９１６年	假野　美枝
１４日	ニフォント	日比野　實	１９６３年	日比野　勇
１６日	マリナ	神谷 まりな	１９４０年	神谷　淳一
１６日	ユリタ	安達 とみえ	２００２年	安達　紀彦
１８日	ルキヤ	樋口　貞子	１９４４年	樋口　邦利
１８日	セルギイ	廣石　寿二	２００４年	廣石　卓也
１９日	ニキタ	中島　愛三	１９４６年	岡野　康子
１９日	ユリヤ	荒井 シノブ	１９９８年	荒井　　譲
２２日	リュボフ	假野　愛子	１９７１年	假野　美枝
２２日	ソフィア	山本　シヅ	２０１０年	山本　やす江
２３日	ユリヤ	小杉　クマ	１９１０年	小杉　英男
２４日	イオシフ	窪田　亮二	１９８３年	窪田　幸夫

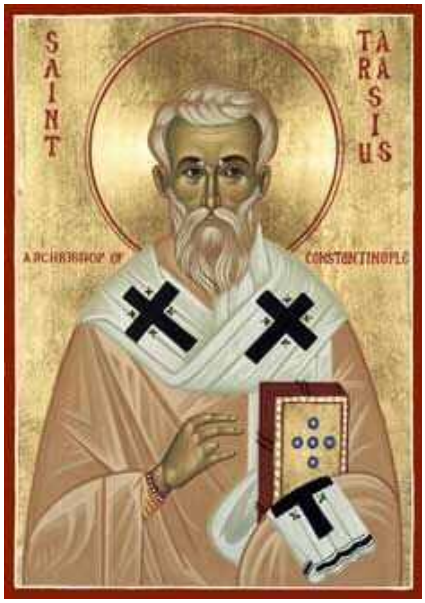
今月の月例パニヒダは第三日曜日です。

コンスタンティノポリの克肖者大主教聖タラシイ

聖記憶日３月９日/２月25日（新暦）

聖タラシイ(タラシオス)はコンスタンティノープルに生まれ、高等な教育を受けて育った。成人になると、皇帝コンスタンティノス6世(780-797)のもと昇進し、元老院の位にまで就いた。この時代、教会には聖像破壊運動※の騒乱が長く続き、時のコンスタンティノープル総主教パウェルもまた、この運動の一賛成者となっていた。総主教パウェルはある日、この運動に加担したことを深く痛悔し、総主教の座を退くことを決意した。そしてその座を引き継ぐのにふさわしいと聖タラシイを指名したのだった。驚くことに聖タラシイはその時、一信徒に過ぎなかったのである。当然、聖タラシイはその指名を拒否し続けた。

ところが、787 年に第七回全地公会(世界の教会の代表者会議　当時教会は、異端を除いて一派しか存在していなかったため、このように世界中の教会の代表者が集まって会議を開いていた)を開催して、聖像が教



義に則しているか否かの協議を行うことが決定すると、彼は思いを改めて主教になることを受け入れた。このような事情で、聖タラシイは、輔祭・司祭・典院・掌院・主教へとハイスピードで叙聖・昇叙し、784 年に総主教となった。

第七回全地公会には 367 名の主教が出席した。聖タラシイはその議長を務めた。ここでイコンの正統性は認められ、多くの主教が共に痛悔をした。その後、聖タラシイは 22 年の間、自分自身に厳しい節制を課しながら総主教を務めた。また元老院時代に蓄えた財産は、貧困に苦しむ人や高齢者や未亡人そして孤児に与えた。特に復活祭の後には彼自身が食事を用意して彼等を招き、彼等の為に自ら給仕したのだった。聖タラシイは皇帝に対しても発言すべきことは毅然として発言する総主教であった。

聖タラシイは 806 年に永眠した。彼は多くの人に惜しまれながらボスポラス海峡近くの修道院に埋葬された。その後、聖タラシイの墓では数えきれないほどの奇跡が起きているという。

※聖像破壊運動(イコノクラスム)は、6世紀に勃興したイスラム教にある「肖像画禁止」の教えがキリスト教会にまで影響を与え、神を描くことは偶像崇拝でありまた神を冒涜する、として教会を揺るがした。これは第七回目の全地公会にて聖像は「神がハリストスという人の形をとって目に見えるようになったために人間が描けるようになったのだから、聖像を描くことは神の愛と恩寵によるもの」とイコンの正統性が決議されてこの論争にピリオドが打たれた。

トロパリ（第四調）： 教えの定規、謙遜と節制の教師として爾は衆人に顕れたり。爾の己を卑しくせしが故に天は爾に啓かれ、爾の己を貧しくせしが故に富は爾に授けられたり。聖なる主教タラシイや、我等の霊の救われんことを、ハリストス我等の神に祈り給え

※トロパリはギリシア語からの翻訳です。

十字架頒布のご案内

～洗礼に、記念に、感謝に… 数量に限定のあるものは、先着での頒布といたします。また No.1 から No.3 の代金は全て購入者が属する教会への献金といたします。詳しくは管轄教会または司祭までお問い合わせください。～

No.1
純銀製/made in ロシア
販売数：1 個
価格：2000 円

No.2
純銀製/ made in ロシア
販売数：1 個
価格：2000 円

No.3
純銀製/made in ブルガリア
販売数：8 個
価格：1600 円

No.4
日本正教会通常頒布品
販売数：限定なし
価格：1300 円